

はじめに

<従前の万福寺地区の風景>



万福寺土地区画整理事業は、東京都心から電車で約21分、川崎市の新都心として発展著しい小田急電鉄小田原線「新百合ヶ丘」駅の徒歩圏に広がる、約37haのまちづくりです。この万福寺地区は、昭和30年代、緑豊かな里山を形成していましたが、昭和40年代からの急速な都市化により、暮らしと自然の結びつきが薄れ地区の自然の放置が進行し、美しい自然を未来へ継承していくことが大きな課題となっていました。また周辺地区と比べ都市基盤が脆弱であり、防災・防犯上の課題も抱え持つ地区となっていました。一方で新百合ヶ丘は、川崎市の新都心として都市化が進み、川崎新都心としての新百合ヶ丘を完成させるためには、この万福寺地区の計画的なまちづくりが急務となっていました。

そのような状況下、当事業は、10年以上にわたる検討経緯を経て、平成12年に組合設立、平成13年に着工、様々なまちづくりの具現化を行い、現在は事業の完成（平成20年秋予定）に向けた最終局面を迎えています。既に基盤整備工事は完了し、現在は保留地・換地などにおける土地利用が進む一方で、従前の自然環境を保全・継承・発展させた公園や緑地が、季節感豊かな光景を創り出しています。

当事業では、従前地独自の様々な「景」、すなわち「人・緑・文化」を継承・発展させながら、「新百合ヶ丘」新都心を補完する、都市と自然が調和した人にやさしいまちづくりを行いました。事業完了を前に新しく与えられた街の名前は「新百合山手」。この街は今、未来へ向かって新たな一歩を踏み出しています。

万福寺土地区画整理組合理事長
中島 豪一

